



Press Release

公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団
〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目 4-24
TEL 06-6375-3202 FAX 06-6375-3229

安全セミナー

「災害と危機管理」

の開催について

安全セミナーを以下のとおり開催いたしますのでお知らせします。

- 趣 旨** 東日本大震災を契機として、改めて災害に対する安全の重要性が社会的に認識されたことに加えて、南海トラフ巨大地震に関する発表や昨今の異常気象を受け、ますます関心が高まっている「防災」をテーマに事故や災害を見据えた地域社会における仕組みづくり等に焦点を当てた安全の啓発活動として、「安全セミナー」を開催することといたしましたのでお知らせいたします。
- テーマ** 「災害と危機管理」
- 日 時** 平成 26 年 9 月 4 日 (木) 13:30～16:30
- 会 場** あましんアルカイクホール・オクト (尼崎市昭和通 2-7-16)
- 内 容 (敬称略)**
 - 主催者挨拶**

公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団理事長 佐々木 隆之
(西日本旅客鉄道株式会社取締役会長)
 - 講演**

「災害リスク・コミュニケーションの新しいかたち」
矢守 克也 (やもり かつや) 京都大学防災研究所 巨大災害研究センター 教授

「災害多発時代の安全・安心を実現する」
河田 恵昭 (かわた よしあき) 関西大学社会安全研究センター長・教授
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長
- 定 員**

500 名 (参加無料・要事前申込)
- 主催等**

主催：公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団
協力：西日本旅客鉄道株式会社、関西鉄道協会
- 応募方法**
 - ・ JR 西日本あんしん社会財団ホームページ (<http://www.jrw-relief-f.or.jp/>) から平成26年7月28日(月)までにご応募ください。
 - ・ 参加者には8月11日(月)までに参加証をメールにてお送りします。
なお、応募者多数の場合は、抽選のうえ結果をメールにてお知らせします。
 - ・ ホームページからご応募いただけない場合は、ハガキ「安全セミナー受講希望」と明記の上、氏名・フリガナ、郵便番号、住所、電話番号を記入のうえ下記の宛先へお送りください。結果のお知らせは、参加証の発送(8月11日(月)予定)をもって代えさせていただきます。
〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目4番24号 JR 西日本あんしん社会財団
- その他**

当日の取材は可能です。取材をご希望の場合は、9月1日(月)17:00までに当財団までご連絡いただきますようお願いいたします。

＜参考＞ 講師の略歴

矢守 克也（やもり かつや）

京都大学防災研究所 巨大災害研究センター 教授



京都大学防災研究所巨大災害研究センター教授。同情報学研究科教授、阿武山地震観測所教授、人と防災未来センター上級研究員などを兼務。博士（人間科学）。現在、自然災害学会、災害情報学会、災害復興学会などの理事などをつとめる。専門は、防災心理学。

主著に、「防災ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション」、「防災人間科学」、「増補版：〈生活防災〉のすすめ」、「ワードマップ：防災と減災の人間科学」、「復興と支援の災害心理学」、「巨大災害のリスク・コミュニケーション」、「夢みる防災教育」など。開発した防災教育手法に、「クロスロード」、「個別避難訓練タイムトライアル」など。

演題「災害リスク・コミュニケーションの新しいかたち」

(講演概要)

繰り返し危険性を指摘されても、準備や対策をする気持ちになれないこともあれば、いくら大丈夫と説得されても無性に心配になることもあります。リスクの受けとめは一筋縄にはいきません。自然災害のリスクも例外ではありません。だからこそ、災害リスク・コミュニケーションが大切になります。この講義では、対話型の防災ゲーム「クロスロード」、その人のためだけに行う避難訓練「個別避難訓練タイムトライアル」、被災者の方にあえて災害前について語っていただいた「Days-Before」など、災害リスクをコミュニケーションするために新しく編み出した手法について具体的に紹介します。

河田 恵昭（かわた よしあき）

関西大学社会安全研究センター長・教授

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長



1974年京都大学大学院工学研究科博士課程修了。京都大学防災研究所教授、巨大災害研究センター長。阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長（兼務）、防災研究所長、巨大災害研究センター長、関西大学社会安全学部長、2012年より現職。京都大学名誉教授。21世紀COE拠点形成プログラム「災害学理の解明と防災学の構築」拠点リーダー。大都市大震災軽減化プログラム（文部科学省）研究代表者。政府関係では現在、中央防災会議防災対策実行会議委員。著書：『これからの防災・減災がわかる本』、『スーパー都市災害から生き残る』、『12歳からの被災者学－阪神・淡路大震災に学ぶ78の知恵』（共著）、『津波災害』、『にげましよう』、『新時代の企業防災』など。

演題「災害多発時代の安全・安心を実現する」

(講演概要)

「近い将来、南海トラフ巨大地震が起これば、やってくる津波は大阪のゼロメートル地帯で氾濫し、このままではキタやミナミの地下街や地下鉄も水没する危険がある」と専門家は断言する。しかし、多くの人びとはまるで他人事のように受け止めている。そんなことより、日々の生活が大事だからである。災害のことを非日常の出来事と考えるからそうなのである。しかし、これだけ複雑怪奇ともいえる現代社会では、日常と非日常の区別がどんどんなくなっており、「いつでも、どこでも、誰でも災害に遭遇する」のが実態であろう。そうであれば、日常防災の重要性に気づくはずである。講演では、その観点から自然災害に被災しない知恵を伝えたい。